

若浜小祭り

昭和五六年度 五年 女児

「はい、手を上げて。」「もっとぴりっとして。」

と、先生方の注意の声がとぶ。

初めての若浜小祭りにそなえての、おどりの練習である。

「若浜小祭りなんて、むずかしそう。楽しくできるのか。」

と思っていたのですが、できたのでした。全校児童が、とっても楽しんでいました。私も楽しかったです。

一年から六年までのだし物も、それぞれアイデアを考えた物でした。五年生の作ったししがしらを見て、

「五年生も高学年だけあって、上手だなあー。よく作ったなあー。」と思いました。

「五年生きりっ。」という合図です。五年生のおどりの番がやってきたのです。このとき、練習のときにたかし先生から言われたことを思い出しました。それは、

「若浜小祭りの時、五年生は六年生より、うまくおどれるかな。」

と言われたことです。私は、

「よし、絶対六年生より、うまくおどってやる。」と思いま

した。自分では、一生けんめいおどったのですが、六年生より、上手におどれたかどうか不安でした。祭りのあとに、「今日のおどりは、六年生よりぴりっとしてよかった。」と言われたとき、

「やったあー。」

と心の中でさけびました。

でも、安心はまだ早いのです。来年の若浜小祭りには今の六年生がいけないのです。今の五年生の私達が、中心となってやらなければいけないのです。先生が、

「今の六年生も不安だったのだろうけれども、こんなに上手にできたのです。来年もがんばろう。」と言いました。私達にもできるのかなど不安になってきました。私達は、今年若浜小祭りを経験しましたが、六年生は、初めてだったのです。りっぱだなと感心してしまいました。

来年の祭りは、どんな祭りになるかはわかりませんが、楽しい祭りになりたいと思っています。そのためには、できれば、体育館ではなく、もっと広い、広いグラウンドで高見山を利用したりして、ゲームも全員参加できるようにゲームをしてみたいです。できるかどうかわかりませんがやってみたいです。こんなことを考えられるのも、若浜小祭り

を企画してくれた、運営委員のおかげだと思います。今の六年生にわらわれない、ほめられるような若浜小祭りにしたと思います。

来年は、最高学年です。この祭りで、一生けんめいやれば何でもでき、一生けんめいやるってこんなにすてきなことだとは思いませんでした。

「若浜小祭りを企画してくれた、六年生のみなさん、どうもありがとうございます。」とさげびたいです。